



6月は「心のきずなを深める月間」 「人権月間」でした。

熊本県では、6月を「心のきずなを深める月間」とし、県下の小中学校、高等学校、支援学校では、いじめをなくし、許さない学校・学級をめざした取組を行っています。

宮原小学校でも、一人ひとりに教育相談を行ったり、「なかまづくり」の授業に取り組んでいきました。3年生では、「このままだまっていいのか」というお話でなかまづくりについて学びました。授業を通して子どもたちが、差別している自分を自覚し、「差別は、差別する側の問題である」と捉え、自分で変わろうとする姿を期待します。自分が差別をしたことを認め、葛藤しながら変わっていかうとすることが、本当のなかまになることだと、この教材を通して学んでほしいです。

このままだまっていいのか

「みなとくん、ちゃんときいているの!また、ぼおとして。」

ぼくは、先生たちからよくおこられる。この前なんか

「人の話、聞いているのか!」

って、おこられた。

二年生の時は、友だちから

「ぼおとして、耳がちくわだろう。」

って、からかわれた。

その時、れんくんが

「そんなこと、言うな。」

って、いつてくれた。びつくりした。だって、れんくんは ちよつとやんちゃで、先

生に よくおこられていたから。でも、それから れんくんの そばにいと、

なんか 安心するようになったんだ。

三年生になると、れんくんといっしょに いつも五人くらいで あそんでい

た。れんくんが 何か言うと、みんな

「れんくんの 言うとおりで いいよ。」

って言うって、すぐ決まるんだ。この前は、ベランダに 友だちを

とじこめて あそんで 先生に おこられた。その後の 話合いで、

「だって、れんくんがしようにって言いました。」

ってみんな言ったんだ。れんくんは、

「おこられるとき、なんで いつも おれだけのせいにするの。」

おかしな思ふなら、その時言うてくれれば いいのに。」

って、おこったような、かなしいような顔で 言うてた。

2

同じクラスの いつきくんが、ある日 作文を みんなの前で読んだ。

ぼくは、友だちから「きたない」って 言われます。前、おしりを三回つ

づけて けられました。いたかった。けど、だれにも言わなかった。見てた

人もいたけど、たすけてくれなかった。がまんするか、と思つた。もつとぶ

んなくられるかもしれないから。「ばか。」とか言いたかったけど、がまん

した。



な かよくしよう か たりあおう ま るい心でつながろう

No.3の2 2022年7月15日(金) 文責:校長:高橋・人権同和教育主任:澤本

ぼくは、はなをほじくってしまうから、友だちから「きたない。」って言われる。でも、はながかゆいからついほじくってしまう。ぼくは、きたないって言われたら、そんなにきたないのかって思ってしまう。そんなにきたないの？
先生、分かりますか、この気持ち。もつとみんなとなかよくしたいです。

ぼくは、いつきくんの 作文を聞きながら、しんぞうがどきどきした。

ぼくは、知っていた。いつきくんを けつていた人を。そして、ぼくはそれをだまっけて見ていた。

ぼくもいつきくんを 苦しめていた…。

3

いつきくんいろいろな人が意見を返していた。

「本当は知っていたのに、知らないふりをしました。」

「言ってもむだだと思っけて、気づかないふりをしたことがあります。」

「いつきくんが、いやな思いをしっけてるって気づいていたのに 何も しませんでした。」

いつきくんを けつた れんくんは、何も言わない。覚えてないのかなあ。忘れたふりをしているのかなあ。分かっているけど 言えないのかなあ。ぼくは、どうすればいいんだらう。ぼくは、何を 言えればいいんだらう。あやまるだけ、いいのかなあ。頭の中も心の中も どうしたらいいか分からなくて、いっばいになったた。(このままだまっけていいのか。)って何度も思っけた。

手のひらは、あせて びっしりだった。しんぞうのどきどきは もつと大きくなった。

ぼくは、手を あげた。

「…いつきくんを けつた人って…だれですか?」

って、言った。れんくんが、自分から 言っけてくれることを

願いながら。

先生は、

「どうしても 知らなくてはいけないこと?」

って聞いたけど、だまっけたままにいたたら ぼくもれんくんも、一生こうかいするって 思っけたから、

「けつた人は、おぼえとらんかも しれんけん…。教えてあげた方が いい。いつきくんの中で、その人は ずつとこわい人になるかも しれん…。でも、いつきくんが いやだっけたことを 教えて、その人も ちゃんと 反省してあやまったら、また いつきくんと なかよくなれるから…。」

と言っけた。なみだが 出っけた。言っけたあとも どきどきとはとまらなかつた。

しばらくして、

「おれです。」

って、れんくんが 言っけた。れんくんも 声がるるええ

いた。

「おれが 何回もけつたし、きたないとかも 言いま

した。」

言ったあと、泣きながら いつきくんに

「ごめん。」

って、あやまっけた。ぼくも、いつきくんに

「いつきくん、ごめんなさい…。」

って、言っけてあやまっけた。

4

休みの日、れんくんといつきくんといっしょに自転

車に乗っけて 近くの公園に行っけて、サッカーをして あ

そんだ、学校でも あそぶけど、やっぱり 外であそぶ

と 気持ちがいい。

(きずな 2020年改訂版 小学校1・2・3年

熊本県人権教育研究協議会 編集 より)